

愛知県常滑市（国内 30 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る
疫学調査チームの現地調査概要

令和 7 年 1 月 17 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 基本情報

用途（飼養羽数）：採卵鶏（9.1 万羽）

発生家きん舎の構造：セミウインドウレス鶏舎

発生家きん舎の飼養形態：ケージ飼い（直立 6 段 10 列（1 階・2 階各 3 段）、通路 6 本）

2 農場の周辺環境・農場概況

- ① 当該農場は、海沿いの平地に位置しており、周囲は田畑、養豚農家、ため池に囲まれている。また、当該農場は、今シーズン国内 17 例目（愛知県 1 例目）が含まれる養鶏団地から東に 600m ほどの距離に位置している。
- ② 当該農場は、セミウインドウレス鶏舎 2 棟（成鶏舎 1 棟、育雛・育成舎 1 棟）、倉庫、堆肥舎、集卵施設で構成されており、発生鶏舎は成鶏舎であった。

3 通報の経緯・発生時の状況

- ① 発生鶏舎（通報時約 484 日齢）では約 6.6 万羽の採卵鶏が飼養されており、通常の死亡羽数は 1 日当たり 4～5 羽程度であったとのこと。
- ② 1 月 16 日の朝の見回りの際、成鶏舎 2 階の入気口寄りの中央のケージのうち、上から 3 段目の 2 ケージにおいて合計 10 羽程度のまとまった死亡を確認したため、家畜保健衛生所に通報したとのこと。その後、家畜保健衛生所の職員が到着するまでに、同列の 4 段目においてもまとまった死亡が確認されたとのこと。

4 管理者及び従業員

- ① 当該農場には農場長を含め従業員が 15 名おり、うち 5 名が鶏舎管理、10 名が集卵作業に従事していたとのこと。なお、鶏舎管理を行う従業員については担当の鶏舎は設けられておらず、集卵作業従事者は鶏舎に立ち入ることはないとのこと。
- ② 他の農場との従業員の共有や、鶏卵等の積み合わせ等はないとのこと。

5 農場の飼養衛生管理

- ① 当該農場の入口には、車両消毒用の動力噴霧器が設置されており、鶏舎入口横には関係者以外立入禁止の表示が付いていた。車両消毒は、農場入口に設置された動力噴霧器か外来業者持参の蓄圧式噴霧器のいずれかにより実施しているとのこと。
- ② 従業員が衛生管理区域に入る際は、集卵施設内の更衣場所で作業着に更衣し、農場内用の長靴に交換している。手指消毒は実施していないとのこと。
- ③ 従業員が成鶏舎（発生鶏舎）に立入る際は、樹脂製サンダルに履き替え、アルコールによる靴底及び手指消毒を実施しているとのこと。また、育雛・育成舎に立入る際は、鶏舎内用の長靴に交換の上、踏込消毒を実施していたとのこと。
- ④ 当該農場の大雛は、3 か月に一度、外部業者に依頼して育成舎から成鶏舎に移動しており、直近の移動は昨年 10 月頃であったとのこと。
- ⑤ 成鶏舎では、列毎にロット管理を行っているためオールアウトは行わず、鶏の導入・出荷時にロット単位の消毒を実施しているとのこと。また、育雛・育成舎では、オールイン・オールアウトが実施されているとのこと。
- ⑥ 導入する鶏は全て初生ひなであり、育雛・育成舎で自家育成しているとのこと。
- ⑦ 発生鶏舎では、壁面等に外部に通じる隙間が複数認められた。
- ⑧ 発生鶏舎ではトンネル換気が行われており、鶏舎前方（入口側）妻側から入気し、

鶏舎後方にある排気ファンにより排気していた。また、排気は舎内温度に合わせて自動調整されており、排気ファンの外側にはダストチャンバーが設置されていた。なお、鶏舎平側には換気用の窓が設けられているが、平常時はカーテンで常時閉鎖しているとのこと。

- ⑨ 飼料は、衛生管理区域外から飼料タンクに補充できるようになっており、閉鎖系のラインにより鶏舎に供給されていた。飼料タンクの周囲には、餌こぼれが認められた。
- ⑩ 給与水は、共同ポンプ場のものを使用し、当該農場で消毒しているとのこと。
- ⑪ 集卵コンベアの鶏舎外出口は高所に設置されており、コンベア上部及び側面にはカバーが設置されていたが、下部にはカバーはなかった。また、鶏舎外出口に蓋は設置されていなかった。
- ⑫ 鶏糞は、成鶏舎では2日に1回、育雛舎・育成舎では週に2回、除糞ベルトを稼働させて鶏舎外に搬出しているとのこと。鶏舎床面にある除糞ピットの開口部には蓋が設置されていたが、閉鎖が不十分であり隙間が確認された。また、鶏糞置場には防鳥ネットが設置されていたが間隙が認められ、鶏糞置場内部でネコが確認された。
- ⑬ 周辺農場で本病が確認されて以降、家畜保健衛生所から配布された消毒薬の鶏舎周りへの散布、ネズミ対策用として鶏舎内への粘着シートの設置等を行っていたとのこと。また、飼養鶏の健康状態の確認頻度を増やしていたとのこと。

6 野鳥・野生動物対策

- ① 農場主によると、発生鶏舎（成鶏舎）には一度ネコが入ったことがあるとのこと。農場内でイタチを見ることもあり、昨年、鶏卵の食害もあったとのこと。
- ② この他、農場周辺ではタヌキ、キツネ、カラス、ヒヨドリも見かけるとのこと。調査時、成鶏舎付近にスズメを確認した。水鳥は、田に水を張っているときは見るものの、冬季は水が張られておらず見ないとのこと。
- ③ ネズミ対策として、殺鼠剤を使用しているとのこと。調査時、発生鶏舎（成鶏舎）では明確なラットサインは認められなかった。育成舎では、ラットサイン（糞や足跡等）を認め、粘着シートにネズミがかかっていた。

(以上)